

4-1 哺乳類 ～大型哺乳類のくらし～

大町ダム周辺一帯では、平成 21 年の調査で 7 目 14 科 23 種の哺乳類が確認されています。主にダム周辺一帯の山に生息するとみられますが、ツキノワグマやカモシカなど、行動圏を広く持つ種も確認されています。

■ クマ、カモシカ、サルなど 哺乳類が好む食べ物

生き物の暮らす環境、行動範囲を決めるひとつの要素は餌場です。

大町ダム一帯に生息する哺乳類が食べているものは何か、食べやすいものは何か、代表的な哺乳類について「食」の好みに注目します。



写真 4.1 多くの野生動物のエサとなっているドングリ（コナラ）とクリ

【クマ(ツキノワグマ)】

クマは、植物性に偏った雑食性の動物です。植物食が約 90%で、樹木の新芽、新葉、ドングリ、果実類、ハチミツなどを好みます。動物食は約 10%で、魚、昆虫、動物の死体などを食べます。時に、罠にかかったイノシシなども食べます。

大町ダム周辺には、クマの好きなドングリをつけるブナ、ミズナラ、コナラの林もあり、秋になるとよく目撃されます。

【カモシカ(ニホンカモシカ)】

カモシカは、草食動物です。中でも葉を好んで食べ、とくに広葉樹の葉をよく食べます。春から秋にかけては柔らかい草本類を多く食べ、晩秋から冬季には木本類を中心に、針葉樹の樹皮やササ類も食べるようになります。

大町ダム周辺では、季節を問わずたびたび目撃されます。

■ 主な大型哺乳類の特徴

大町ダム周辺から北アルプスに生息する哺乳類の特徴を整理します。



ツキノワグマ クマ科

- 大きさ：110～130cm
- 生息環境：山地帯から高山帯にかけての森林内
- 食性：植物食傾向の強い雑食（果実や草花、アリなど）
- 繁殖期：5～7月
- 特徴：胸元の白い「三日月模様」が名前の由来だが、模様がない個体もいる



ニホンザル オナガザル科

- 大きさ：オス 53～60cm
メス 47～55cm
- 生息環境：落葉樹林、照葉樹林
- 食性：植物食傾向の強い雑食（果実や草花、昆虫など）
- 繁殖期：9～12月
- 特徴：人間と同じく昼に活動し、夜は眠る。尻尾は短い。

【サル(ニホンザル)】

サルは、植物食を主とし、キノコ類や昆虫などの動物も食物とする雑食性の動物です。

植物の葉、小枝、茎、果実、種子、花、蜜、根、樹皮、冬芽など様々なものを食べます。

また、甘くて栄養価の高い農作物(カキ、カボチャ、スイカ、トウモロコシ、クリ、モモなど)を好むため、各地で農業被害が発生しています。

大町ダム周辺には日常的に姿を見せ、道路沿いにもよく見かけられます。



写真 4.2 大町ダム天端を歩くニホンカモシカ
(2013年7月12日)



写真 4.3 大町ダム天端の手すりを歩くニホンザル
(2011年8月5日)



ニホンカモシカ ウシ科

- 大きさ：70～85cm
- 生息環境：亜高山帯以下の森林、ブナやミズナラを中心とした落葉広葉樹林
- 食性：植物食（落葉広葉樹や針葉樹、草木の葉）
- 繁殖期：10月下旬～11月
- 特徴：特別天然記念物の動物。オス、メスともに2本の角がある。



ニホンジカ シカ科

- 大きさ：100～130cm
- 生息環境：亜高山以下の森林
- 食性：植物食
- 繁殖期：9～11月
- 特徴：日本では唯一のシカ科動物。オスのみに角が生え、毎年生え変わる。食物環境、生息環境にあわせて、数キロから数十キロメートル季節移動を行うことがある。



ニホンイノシシ イノシシ科

- 大きさ：110～160cm
- 生息環境：常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、里山の二次林、平野部など広く分布
- 食性：植物食傾向の強い雑食性
- 繁殖期：12～2月
- 特徴：生まれて4か月くらいまで背中に縞模様があり、ウリボウと呼ばれる。

【シカ(ニホンジカ)】

シカは、草食動物です。植物の葉、芽、樹皮、果実を餌としており、その量は1日約3kgに及びます。

近年、北アルプスの山麓部においても、シカの生息数が増加し、生息範囲が拡大しており、高山帯での高山植物の食害等が懸念されています。北アルプスを含む中部山岳国立公園では、ニホンジカ対策方針を設け、高山、亜高山帯の脆弱な生態系を守る取り組みを行っています。

【イノシシ(ニホンイノシシ)】

イノシシは、雑食性の動物ですが、動物食は全体の数%であり、ほとんどは植物食です。

地表から地中にかけての各種の植物と動物を掘り返して食べます。主にクズ・ススキなどの根茎、植物の葉、果実、堅果などを食べています。ニホンザル同様に、各地で農業被害が発生しています。

【コラム】

捕食者飽和

多くの野生動物の餌となるドングリは、実りが少ない不作の年が時々あります。不作の年は、野生動物による農作物被害等も増え、社会問題となります。

実は、このドングリの豊凶の現象は、ブナが動物にドングリを食べられないようにするためです。毎年同じ量の実をつけると、それに見合ったネズミやリスを養うことになり、実を全部食べられてしまいます。ところが、ドングリが実らない、もしくは少ないと、ネズミやリスも少なくなる。そこへ翌年に大量に実をつけ、食べきれない実が翌年発芽し、子孫を残せるという仕組みです。この仕組みを「捕食者飽和」といいます。山全体でリズムが揃うのは、ブナの花芽がつくられる前年の気温や降水量が影響し、同調するためです。豊凶の小さなリズムはおおよそ1年置きであり、5年～7年に1度などのリズムで一気に大量の実をつけると言われます。

イノシシの生態

大町ダム周辺では、イノシシが現れた痕跡があちこちで確認されています。イノシシは、特徴的な行動を示す動物です。

①行動時間

イノシシは本来昼行性ですが、夜行性を示すこともあります(昼間に猟区で猟師に追われるイノシシ、人家近くに出没するイノシシ等)。

②湿地を利用する

イノシシは、体温調節や寄生虫落としのために水浴びや泥浴びを行う習性があります。そのため、湿地に出没することが想定されます。

③芝を掘り返す

イノシシは、芝を含む草本の根を餌として好むため、それを求めて芝を掘り返します。特に餌が少なくなる晩秋～冬にかけて植物の根をよく食べるため、掘り返し被害も多くなるようです。



写真 4.4 高瀬渓谷緑地公園で確認されたイノシシによる掘り返しの痕跡